

申請手続きのデジタル化 進捗報告

国土交通省 航空局
令和5年11月

今回発表（運用課）

1. SLOT/SPOT関連-申請・照会の効率化（課題提案：ANA）

内容：SLOT/SPOT調整において電話・FAXなどのアナログ確認が多く事務負担が発生。

進捗：運用課においてSWIMを活用したデジタル申請を検討中。

2. 制限区域関連-申請・使用の効率化（課題提案：ANA）

内容：ランプパス発行がアナログ管理であり事務負担に繋がっている。

進捗：運用課において、システム性能向上に向けて検討中。

3. 使用航空機データ-申請の効率化（課題提案：ANA）

内容：空港管理者間で航空会社の機材情報が共有されておらず都度申請が必要。

進捗：交通管制企画課において、対応を調整中。

WGからの報告内容(昨年度)

申請手続きデジタル化WG報告 抜粋
令和5年3月22日作成

①現場視察の実施

- WGにて推察した、SLOT、SPOTの申請手続き、制限区域立入手続きにおける「ボトルネック」について、真因の確認のために東京国際空港、関西国際空港にて現場視察を実施。
- SLOT、SPOTの空き情報の共有や、制限区域立入手続きについて、細かい手順や地域差があることを確認。

2022年(令和4年)10月28日(金)

実施日

2022年(令和4年)10月20日(木)

14名
(ANA, JAL, 富士山静岡空港、気象庁、航空局)

見学者

16名
(ANA, JAL, 中部国際空港、関西エアポート、航空局)



見学後の意見交換

実施
状況



処理状況の確認

申請手続きデジタル化WG報告 抜粋
令和5年3月22日作成

4-1. SLOT・SPOTの申請、照会の効率化

4-1-1 課題と真因

①背景と課題

- 空港でのSLOT、SPOT調整においては、それぞれの空き状況や申請のステータスが不明のため、関係者間での電話やFAX、メールを利用した個別の確認作業が多く発生。
- 同じ情報を扱う中で、それぞれのシステムが繋がっていないため、各自で情報を入力、管理しており、システム登録のために申請毎にデータの処理を手動で実施し、時間を要している。

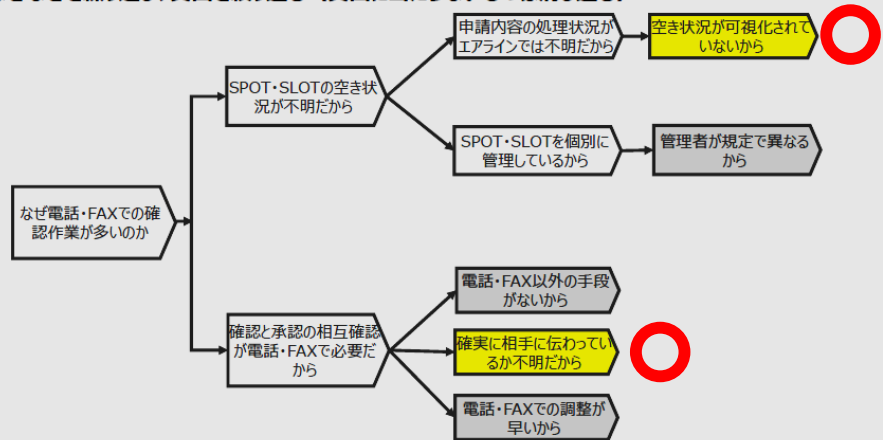
②検討で特定した真因

課題	真因
電話・FAXでの確認作業が多い	空き状況が可視化されていないから
	確実に相手に伝わっているか不明だから
申請事項確認に時間を要する	データの処理をするのに時間を要するから

参考：真因追求のフロー

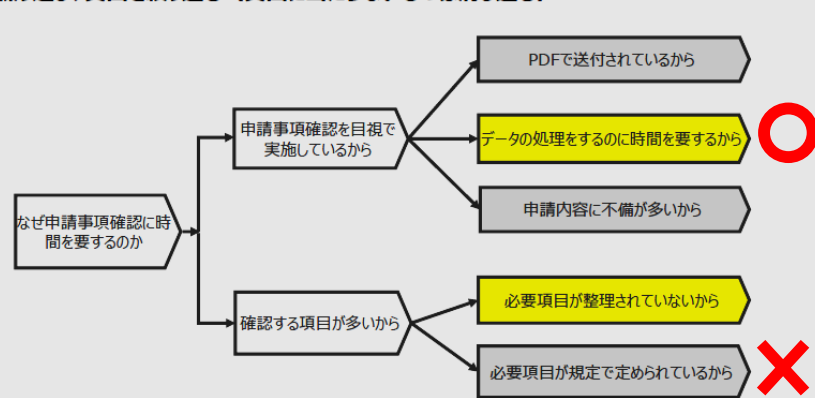
真因の追求（調整連絡）

なぜなぜを繰り返し、真因を絞り込む（真因に当たらないものは消し込む）



真因の追求（申請事項確認）

なぜなぜを繰り返し、真因を絞り込む（真因に当たらないものは消し込む）



今後のSWIMを活用した課題解決(予定)

スロットの空き状況を確認し、申請→調整→承認までをオンラインで実施

※対象空港：新千歳空港、東京国際空港、成田国際空港、中部国際空港、大阪国際空港、関西国際空港、福岡空港



成田国際空港のスロット調整イメージ

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10
2024/4/1								○		○
2024/4/2						○	○	○		
2024/4/3						○		○		

○：空きスロット
■：調整不可（時間外）

スケジュール	取組
SWIMの初期サービス (令和6年度末)	<p>【スロットリクエストサービスのDX化（上記の対象空港）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き状況を可視化 ・申請／調整／承認までをオンライン化 ・出発空港及び到着空港の申請等をワンストップ化
初期サービスの改善 (令和9年度～)	<p>【スポットリクエストサービスのDX化（国管理空港）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き状況を可視化 ・申請／調整／承認までをオンライン化 ・出発空港及び到着空港の申請等をワンストップ化 ・スロットリクエストサービスを統合 <p>※会社管理空港等の対応については引き続き検討</p>